

太政官權大書記官
兼外務權大書記官
正六位村田保註釋

刑法註釋

再版

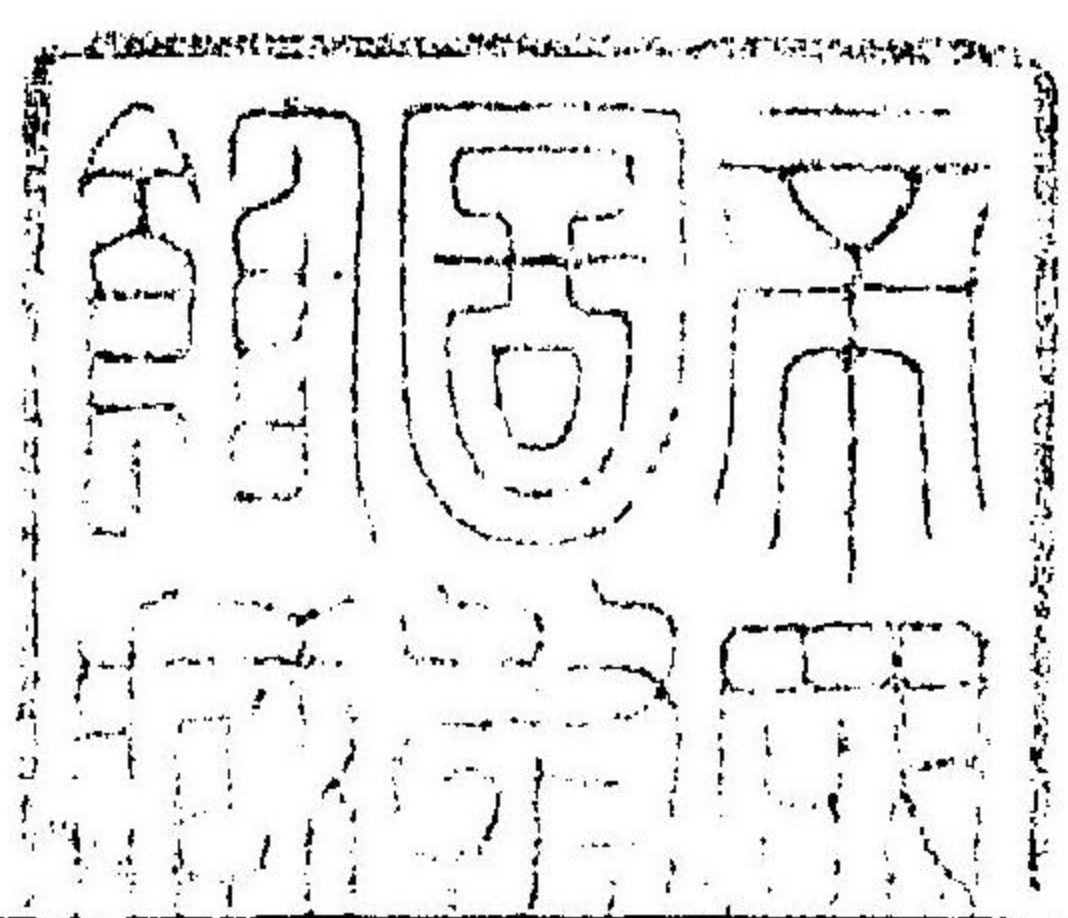
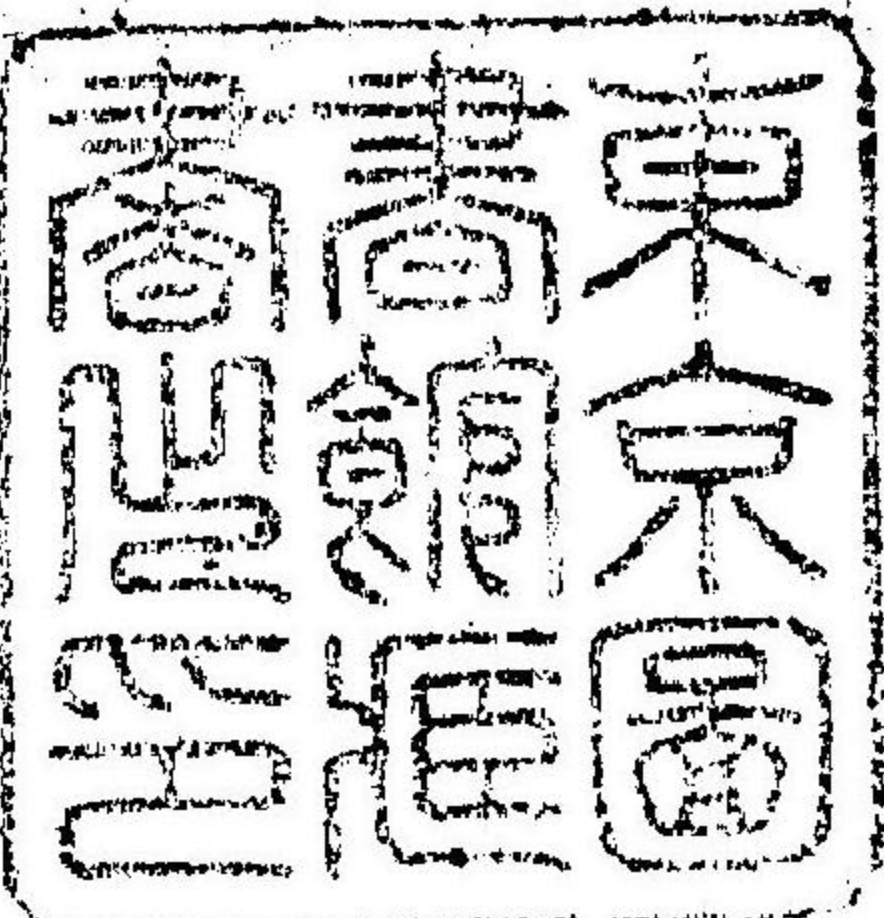
卷六

再版卷之六目表

第三百一十二條	第三百一十三條	第三百一十四條	第三百一十五條	第三百一十六條	第三百一十七條	第三百一十八條	第三百一十九條	第三百二十條	第三百二十一條	第三百二十二條	第三百二十三條	第三百二十四條	第三百二十五條	第三百二十六條	第三百二十七條	第三百二十八條	第三百二十九條	第三百三十條	第三百三十一條	第三百三十二條	第三百三十三條	第三百三十四條	第三百三十五條	第三百三十六條	第三百三十七條	第三百三十八條	第三百三十九條	第三百四十條	第三百四十一條	第三百四十二條	第三百四十三條	第三百四十四條	第三百四十五條	第三百四十六條	第三百四十七條	第三百四十八條	第三百四十九條	第三百五十條	第三百五十一條	第三百五十二條	第三百五十三條	第三百五十四條	第三百五十五條	第三百五十六條	第三百五十七條	第三百五十八條	第三百五十九條	第三百六十條	第三百六十一條	第三百六十二條	第三百六十三條	第三百六十四條	第三百六十五條	第三百六十六條	第三百六十七條	第三百六十八條	第三百六十九條	第三百七十條	第三百七十一條	第三百七十二條	第三百七十三條	第三百七十四條	第三百七十五條	第三百七十六條	第三百七十七條	第三百七十八條	第三百七十九條	第三百八十條	第三百八十一條	第三百八十二條	第三百八十三條	第三百八十四條	第三百八十五條	第三百八十六條	第三百八十七條	第三百八十八條	第三百八十九條	第三百九十條	第三百九十一條	第三百九十二條	第三百九十三條	第三百九十四條	第三百九十五條	第三百九十六條	第三百九十七條	第三百九十八條	第三百九十九條	第四百條
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	------

東京圖書館

函	三	門	新
架	九	部	一
號		類	



刑法註釋卷六

○第三編凡三十三章 身體財產ニ對スル重罪輕

罪

此編ハ人ノ身體生命ニ對シ若クハ官民ノ動

産不動産ニ對シ犯シタル一切ノ重罪輕罪ヲ

掲載ス凡ソ罪ヲ犯シ刑ニ處セララル、者ハ大

抵此編中ニ記載スル條件ニ觸ル、者多シ故

ニ刑法中最モ多ク使用ス可キ緊要ノ部トス

○第一章凡七十四條 身體ニ對スル罪

身體ニ對スルニ數箇ノ種別アリ或ハ生命ニ

手言 牙 關シ或ハ身體ノ自由ニ關シ或ハ貞潔ニ關シ
或ハ名譽ニ關スル等はレナリ

○第一節 謀殺故殺ノ罪

身體ニ對スル罪ニ於テハ人ノ生命ヲ殄ツ
ヲ最モ重シトスレハ謀殺故殺ノ罪ヲ以テ第
一ニ掲クルナリ

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ
謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス

本條ハ仇恨妬忌貪慾爭奪等ノ目的ヲ以テ豫
メ人ヲ殺サンコトヲ謀リ其思慮ヲ盡クシ及ヒ

手段ヲ設ケテ殺ス者ヲ謀殺ノ罪ト爲シ已ニ
殺シ訖レハ其犯人ヲ死刑ニ處ス是レ人ヲ殺
セハ己レモ死ス可キコトハ自然ノ理ナリ

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタ
ル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

本條ハ人ノ必ス死ニ至ル可キ毒藥ヲ施用シ
テ人ヲ毒害シタル罪ヲ云フ抑モ毒藥人ヲ殺
ス其極惡殘忍ナルコト人ヲ無知無心ノ間ニ殺
害スレハ彼ノ人ヲ殺スニ兇器ヲ用フルカ如
キハ之ヲ防クコトヲ得可ケレトモ毒殺ニ至テ

ハ最モ之ヲ防ク_一難シ故ニ毒殺ヲ罪ノ最モ
惡ム可キ者トシ豫メ謀ルト否トラ分タス謀
殺罪ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者
ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス

本條ハ謀殺ヨリ輕ク毆殺ヨリ重キ所ノ殺罪
ヲ云フ故殺ハ始メヨリ人ヲ殺スノ意アルニ
非ス臨時殺意ヲ發シ故サラニ人ヲ殺シタル
者ヲ故殺ノ罪ト爲ス例ハ人ト爭鬪スルノ
際其憤怒ニ堪ハス忽然殺意ヲ發シ直チニ其

人ヲ殺シタル者ナレハ豫メ謀リタルトハ自
カラ間アリ故ニ之ヲ無期徒刑ニ處ス故殺ニ
ハ其從犯アル可キ場合ナシ

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ
以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

豫メ謀テ人ヲ殺シタルニ非スト雖モ支解人
肢體ヲ分解 折割人ノ腹内ヲ割キテ胎兒
スルノ類 又ハ生膽ヲ採ルノ類 其他
慘刻ノ所爲 毒蛇ニ喝ハシメ又ハ湯ヲ以テ前
條ノ故殺罪ヲ犯シタル者ハ其所行極メテ殘
惡ナレハ謀殺ニ非スト雖モ之ヲ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル
為メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、為メ人ヲ
故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

本條モ亦豫メ謀テ人ヲ殺シタルニ非スト雖
モ死刑ニ處スルモノハ重罪若クハ輕罪ヲ犯
スニ便利ナル為メ防禦スル人ヲ故殺シ又ハ
已ニ重罪輕罪ヲ犯シテ逃走シ其罪ヲ遁ル、
為メ追捕人ヲ故殺シタル者例ハ強竊盜ヲ
犯サン為メ守門者ヲ故殺シ又ハ已ニ財物ヲ
盜取シタル後事主ノ之ヲ取還サントスルヲ

故殺スルカ如キハ全ク他ノ犯罪アル為メ人
ヲ殺セハ其情甚タ惡ム可シ自己ノ為メニ殺
シタルト共犯ノ為メニ殺シタルトヲ問ハス
死刑ニ處スルナリ

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘
導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以
テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

本條ハ人ヲ殺スノ所行ハ一ナレトモ其殺意
ノ豫謀ト臨時トニ因テ其刑ヲ異ニセリ詐稱
誘導シテ危害ニ陷ルトハ例ハ津河水深ク

泥濘ナルヲ平淺ト詐稱シ橋梁渡船朽漏ナル
 ヲ牢固ト詐稱シ人ヲ過渡セシメ又ハ陷穽ヲ
 掘リ之ニ誘導シテ陷溺セシムルノ類ハ孰レ
 モ人ヲ死ニ致ス可キ者ナリ故ニ臨時殺ス可
 キノ意ヲ發シ危害ニ陷レ死ニ致シタルハ故
 殺ヲ以テ論シ無期徒刑ニ處シ豫メ謀テ危害
 ニ陷レ死ニ致シタルハ謀殺ヲ以テ論シ死刑
 ニ處ス可キヲ云フ

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ
 殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

本條ハ人ヲ謀故殺セントシテ圖ラス別人ヲ
 殺シタルヲ云フ例ハ甲ヲ殺サント欲シ
 毒藥ヲ設クルニ乙之ヲ吞テ死シ又ハ甲ト忿
 争シ一時ノ激怒ニ堪ヘス之ヲ殺サントシテ
 發砲シタルニ却テ乙ヲ殺シタルカ如キハ其
 所行過錯ニ出テ其目的ヲ達セサレトモ固ヨ
 リ人ヲ殺サント欲スルノ意アレハ假令甲ヲ
 殺サントシテ乙ヲ殺シタルモ即チ甲ヲ殺シ
 タルト同シ謀殺ヲ行ヒタル時ハ死刑ニ處シ
 故殺ヲ行ヒタル時ハ無期徒刑ニ處ス可シ

○第二節 毆打創傷ノ罪

毆打創傷トハ人ヲ毆打シテ創傷ヲ加ハタル
トヲ云フ止夕毆打シタルノミニシテ創傷ヲ
加ハサル時ハ違警罪第四百二十五條ニ依リ
處分ス可シ毆打創傷ノ罪ハ必ス其創傷ノ結
果ヲ待テ其罪ヲ定ム可キモノトス

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致
シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條モ亦人ヲ死ニ致シタル罪ト雖モ其所行
タル一時ノ憤怒ニ因リ人ヲ毆打シ其創傷ノ

為メ死ニ致シタル者ナレハ始メヨリ毫モ殺
意アルコトナシ其情狀謀故殺ヨリ重カニ輕シ
仍テ之ヲ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳
ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀
敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シ
タル者ハ輕懲役ニ處ス
其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他
身體ヲ殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五
年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ毆打創傷ニ因テ人ヲ廢篤疾ニ致シタル罪ヲ云フ篤疾トハ人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シテ視官ヲ失ハシメ其兩耳ヲ聾シテ聽官ヲ失ハシメ又ハ其兩手及ヒ兩足ヲ折リ或ハ一手ト一足ヲ折リ身體ノ運用ヲ失ハシメ若クハ舌ヲ斷テ話機ヲ失ハシメ陰陽ヲ毀敗シテ男女ノ生育ヲ失ハシメ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメテ痴呆瘋癲ト爲サシムルヲ云フ孰レモ其人ヲシテ畢生人間ノ幸福ヲ失ハシムレハ之ヲ重罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

廢疾トハ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ一手一足ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ痿痺病ト爲シ又ハ指齒ヲ折リ耳鼻ヲ抉毀シ其人ヲシテ畢生不具タラシムルヲ云フ其損傷篤疾ノ半ニ止レハ之ヲ輕罪ト爲シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス毆打創傷罪ニ於テ罰金ヲ附加セサルモノハ被害者ノ要償ヲ妨ケサルカ爲メナリ廢疾ノ意ハ同時ニ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ且一肢ヲ折リ又ハ一目ノ人ヲ毆チ其一目ヲ瞎シ盲目ニ致シタル時ト雖モ仍ホ廢疾ヲ以

テ論ス但裁判官ノ意見ヲ以テ一事ノミナレ
ハ之ヲ短期ニ處シ二三事ヲ兼ヌル者ハ長期
ニ處スルヲ得

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時
間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至
ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ
處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月
以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタ

ル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ人ヲ毆打シテ之カ爲メ二十日以上ノ

時間疾病ニ罹リ卧蓐セシメ又ハ職業アル者

ヲシテ休業セシメタル者ハ一年以上三年以

下ノ重禁錮ニ處ス二十日ト日數ヲ定メタル

所以ハ醫家ノ實驗ニ因ルニ人ノ疾病ハ二十

日ヲ過クレハ容易ニ治シ難ク必ス二三月ヲ

越ルモノトセリ

疾病休業ノ時間二十日以下ニ止ル者ハ其創

傷モ自然輕ケレハ一月以上一年以下ノ重禁

錮ニ處ス

身體ニ少シク創傷ヲ成シタルノミニシテ暫時ノ疾病休業ニ至ラサル時ハ其罪最モ輕シ故ニ輕罪中最モ輕キ所ノ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百九十九條ヨリ第三百一條マテニ記載シタル毆打創傷罪ハ一時ノ激怒ヨリ出テ犯

シタル罪ヲ云フ若シ其毆傷豫謀ニ係リ一時ノ怒ニ出サル時ハ其情惡ク可シ各本刑ニ照ラシ一等ヲ加フ則チ人ヲ毆傷シ因テ死ニ致シタルハ有期徒刑ニ處ス
人ヲ毆傷シ因テ篤疾ニ致シタルハ重懲役ニ處ス

人ヲ毆傷シ因テ廢疾ニ致シタルハ二年六月以上六年三月以下ノ重禁錮ニ處ス

人ヲ毆傷シ因テ二十日以上疾病休業ニ致シタルハ一年三月以上三年九月以下ノ重禁錮

ニ處ス

人ヲ毆傷シテ疾病休業二十日ニ至ラサルハ
一月七日以上一年三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ
又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打
創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ第二百九十六條ト其事犯ヲ同クス止
タ異ナル所ハ故殺ト毆打創傷トノミ乃チ他
ノ犯罪アル爲メ人ヲ創傷スレハ其情重シ前
條ノ豫謀ニ係ル者ト同刑ニ處ス

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタ
ル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

本條ハ第二百九十八條ト其事犯ヲ同クス乃
チ其目的トスル人ヲ毆傷セスシテ却テ別人
ヲ毆傷ス其所犯過錯ニ出ルト雖モ固ヨリ人
ヲ毆傷セント欲スルノ意アレハ仍ホ毆打創
傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタ
ル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各
自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重

ヲ知ル一能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等
 ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス
 毆打創傷罪ニ於テハ二人以上共犯ニ係ルト
 雖モ總則ノ例ニ照ラシ皆正犯ト爲シ各自ニ
 其刑ヲ科スル一ヲ得ス何トナレハ毆打創傷
 ハ其創傷ノ結果ヲ待テ其罪ヲ論ス可キモノ
 ナレハ其重傷ヲ成シタル者ト輕傷ヲ成シタ
 ル者ト同刑ニ處スル理ナシ因テ先ツ創傷ノ
 輕重ヲ詳カニシ輕傷ヲ成シタル者ニハ輕傷
 ノ刑ヲ科シ重傷ヲ成シタル者ニハ重傷ノ刑

ヲ科ス併シナカラ二人以上共ニ亂毆シテ誰
 カ重傷ヲ成シ誰カ輕傷ヲ成セシ一ノ詳カナ
 ラサル時ハ各其本刑ヲ科スル一ヲ得ス故ニ
 重傷ノ刑ヨリ一等ヲ減ス例ハ五人共ニ石
 ヲ擲チ人ノ兩目ヲ瞎ス其何人ノ石ナル一ヲ
 知ラサル時ハ之ヲ無罪ト爲ス一ヲ得ス又各
 自ニ篤疾ノ刑ヲ科スルニ忍ヒス仍テ一等ヲ
 減シテ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス然
 レトモ甲ハ右ノ目ヲ瞎シ乙ハ左ノ目ヲ瞎シ
 タル一ノ判然ナル時ハ甲乙共ニ癡疾ノ刑ヲ

料ス可シ但教唆者ハ孰レモ己ニ成シタル所
ノ創傷罪ノ本刑ヲ受ク可シ何故ナレハ人ヲ
毆ツ可シト教唆スレハ假令之ヲ死ニ致スモ
其責ヲ免ル、トヲ得サレハナリ是レ總則第
百八條ニ記載シタル例ト稍ヤ同シカラス
第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當
リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシ
メタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ
減ス

二人以上共ニ人ヲ毆打スル時自カラ毆傷ヲ

成サスト雖モ毆打スル人ヲ幫助シテ傷ヲ成
サシメタル者ハ全ク其助力ノ爲メニ傷ヲ成
シタルハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ照ラシ
一等ヲ減ス例ハ被害者ノ兩手ヲ押へ自由
ナラシメ共ニ因テ他人ヲシテ之ヲ毆打セシメ
篤疾ニ致シタル時ハ篤疾ノ刑ヨリ一等ヲ減
シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類
第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ
人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷ス
ルノ例ニ照シテ處斷ス

人ノ身體健康ヲ害ス可キ物品毒藥ノ如キ生命ニ關スル物ニアラスヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ固ヨリ人ヲ死ニ致サントスルノ意ナク止夕人ヲ惱マサシメントスルニ過キサレトモ其人ヲ無知無心ノ間ニ疾苦セシムレハ其所行惡ム可シ仍テ第三百二條ノ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照ラシ一等ヲ加ヘテ處斷ス若シ汚穢物ヲ以テ人ノ口鼻内ニ灌入スルカ如キハ乃チ本條ニ依ル可キモノナラン

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

本條ハ第二百九十七條ト事犯ヲ同シクシテ其意タル人ヲ殺サント欲スルニ非ス止夕創傷ヲ加フル爲メ人ヲ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ヲ云フ例ハ人ヲ誘導シテ陷穽ニ墮シ因テ一肢ヲ折ル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス或ハ橋梁ノ朽タルヲ牢固ト詐稱シテ人ヲ過渡セシ

刑罰論 卷六
メ因テ死ニ致シタル時ハ重懲役ニ處スルノ類

○第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
一般ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ハ總則第七十五條以下ニ掲ケタリ茲ニ謂フ所ノ宥恕及ヒ不論罪ハ本條特別ニ記載スル不論罪及ヒ宥恕減輕ニシテ專ラ殺傷ノ罪ニ關シ別ニ其例ヲ示ス者ナリ宥恕ハ二等又ハ三等ヲ減シ不論罪ハ全ク其罪ヲ問ハス

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因

リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ自己ノ身體ニ暴行人ヨリ毆打又ハ暴行ヲ受クルヲアリ憤怒ニ耐ヘスシテ忽チ暴行人ヲ故殺シ或ハ創傷シタル者ハ被害者ニ於テ己ニ人ニ暴行ヲ爲スノ罪アリ犯人ニ於テハ憤怒ニ耐ヘサルヨリ其罪ヲ犯シタルニアレハ之ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス可シ但己レノ不正ニ依テ自カラ暴行ヲ

招キ其人ヲ殺傷シタル時ハ宥恕減輕スルヲ得ス乃チ暴行人ト雖モ妄リニ殺傷スルヲ得サルヲ示スナリ

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

二人互ニ毆傷シ雙方トモニ先キニ暴行ヲ受ケタリト言ヒ孰レカ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル時ハ各其本刑ヲ受ク可キ者ナレトモ裁判官ノ意見ヲ以テ雙方ノ本刑ヲ宥

恕スルヲ得可シ併シナカラ二人互ニ毆傷シ手ヲ下スノ先後判然ナル時ハ前條ノ例ニ照ラシ處分ス可キモノトス

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

本條モ亦一時ノ忿怒ニ因リ人ヲ殺傷シタルヲ云フ本夫其婦ノ姦夫ト現ニ姦通スルヲ目撃シ即時ニ姦夫及ヒ姦婦ヲ故殺シ若クハ

創傷シタル者ハ人情憤怒ヲ發スルノ之ヨリ甚シキヲ無ケレハ其本刑ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス但犯罪前ニ本夫其婦ノ姦通ヲ許容シ若クハ黙許シ又ハ其淫行ヲ誘ヒテ利ヲ圖ル等ノ事情アレハ殺傷ノ罪ヲ宥恕セス乃チ本刑ヲ科ス可シ

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

本條ハ晝間事故ナクシテ人ノ住居シタル家屋又ハ其園内ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞シテ入ラントスル者ハ必ス不良ノ心ヲ抱キタルヲ知ル可シ之ヲ防止追逐スル爲メ故殺若クハ創傷シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス若シ夜間ニアリテ犯人ヲ殺傷シタル者ハ固ヨリ其罪ナシト雖モ本條ハ晝間ナルヲ以テ必スシモ殺傷セサルモ外ニ之ヲ防ク可キ手段ナキニアラス故ニ全ク其罪ヲ免ルサスシテ宥恕減輕スル

創傷シタル者ハ人情憤怒ヲ發スルノ之ヨリ甚シキヲ無ケレハ其本刑ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス但犯罪前ニ本夫其婦ノ姦通ヲ許容シ若クハ黙許シ又ハ其淫行ヲ誘ヒテ利ヲ圖ル等ノ事情アレハ殺傷ノ罪ヲ宥恕セス乃チ本刑ヲ科ス可シ

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

本條ハ晝間事故ナクシテ人ノ住居シタル家屋又ハ其園内ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞シテ入ラントスル者ハ必ス不良ノ心ヲ抱キタルヲ知ル可シ之ヲ防止追逐スル爲メ故殺若クハ創傷シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス若シ夜間ニアリテ犯人ヲ殺傷シタル者ハ固ヨリ其罪ナシト雖モ本條ハ晝間ナルヲ以テ必スシモ殺傷セサルモ外ニ之ヲ防ク可キ手段ナキニアラス故ニ全ク其罪ヲ免ルサスシテ宥恕減輕スル

ノミ住居ノ解ハ第百七十一條ニ見ヘタリ
 第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可
 キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス
 前數條ニ記載シタル事犯ニ因リ殺傷ノ罪ヲ
 宥恕ス可キ時ハ裁判官ノ意見ヲ以テ本刑ニ
 二等ヲ減スルカ又ハ三等ヲ減ス可シ乃チ故
 殺ノ罪ナレハ重懲役又ハ輕懲役ニ處シ篤疾
 ナレハ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮
 又ハ一年以上二年六月以下ノ重禁錮ニ處シ
 癡疾ナレハ一年以上二年六月以下ノ重禁錮

又ハ六月以上一年三月以下ノ重禁錮ニ處ス
 ルヲ云フ

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ム
 一ヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自
 己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪
 ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キ
 タル者ハ此限ニ在ラス
 前條マテハ宥恕減輕ヲ云ヒ本條及ヒ次條ハ
 不論罪ヲ云フ乃チ他人ヨリ暴撃ヲ受ケ身體
 生命ヲ正當ニ防衛スルニ當リ其人ヲ殺傷セ

サレハ己レノ身體生命ニ害ヲ被ラシテヲ懼
 レ且外ニ寔ナル可キ手段ナク己ムヲ得ス
 シテ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ為メニ
 シタルハ勿論他人ノ為メニシタリト雖モ同
 シク其罪ヲ論ス可カラサル者トス例ヘハ暴
 行人ニ遇ヒ其金^{ハモ}刃ヲ以テ刺レントヲ恐レ之
 ヲ防ヒテ殺傷シ又ハ婦女ノ輪姦セラレント
 スルヲ見テ為メニ暴行人ヲ殺傷スルノ類ヲ
 云フ併シナカラ自カラ不正ノ所為アリテ暴
 行ヲ招キタル者ハ其生命ヲ防衛スル為メ殺

傷シタリト雖モ其罪ヲ免ルス可カラス例ヘ
 ハ姦夫本夫ニ姦所ニ撞見セラレ毆撃ヲ受ク
 ルト雖モ本夫ヲ殺傷スルトヲ得サルノ類
 第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムヲ得サ
 ルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス
 左ニ記載シタル第一項第二項ノ事件ハ自己
 ノ財産ヲ防衛スル為メ暴行人ヲ殺傷スル者
 ヲ云フ抑モ人ノ財産ハ前條ニ記載シタル身
 體生命ニ次ク可キ至重ノ物ナレハ之ヲ防衛
 スル為メ己ムヲ得ス暴行人ヲ殺傷シタル

ノ援助ヲ乞フ難シ若シ夜間事故ナクシテ
人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁
ヲ踰越損壞スル者ハ身體生命ニ對シ害ヲ爲
スニ非サレハ財産ニ對シ害ヲ爲スモノナラ
シ甚タ人ヲ恐怖セシムルヲ深シ故ニ犯人ヲ
殺傷シタル時晝間ナレハ宥恕ス可シト雖モ
夜間ニ於テハ之ヲ無罪ト爲ス

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト
雖モ已ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ
加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ

仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ
在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ
其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十四條ノ身體生命ヲ防衛シ及ヒ第三
百十五條ノ財産ヲ防衛スルニ因テ暴行人ヲ
殺傷シタル時若シ殺傷セシテ外ニ防ク可
キ手段アリ又ハ已ニ拘執ニ就キ若クハ贓物
ヲ棄テ、逃走シ危害已ニ去リタルノ後其勢
ニ乘シテ暴行人ヲ殺傷シタル時ハ全ク故意
ヲ以テ殺傷シタル者ナレハ之ヲ無罪ト爲ス

トヲ得ス乃チ本刑ニ處ス可キモノナレトモ
裁判官ハ其情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ
照ラシ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス
ルトヲ得可シ

○第四節 過失殺傷ノ罪

過失殺傷トハ舊律ニ於テハ思慮ノ及ハサル
意外ニ出タルモノヲ云ヘトモ此刑法ニ於テ
ハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルヨリ
犯シタル者ヲ過失殺傷ノ罪ト爲シ舊律ニ謂
フ所ノ如キハ總則第七十七條ニ掲クル罪ヲ

犯ス意ナキノ所爲ナレハ此刑法ニ於テ總テ
無罪トセリ

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守
セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓
以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

疎虞トハ不注意ナリ例ヘハ人民雜沓ノ地ニ
於テ車馬ヲ疾驅シ又ハ金刃ヲ揮フテ遊戯ヲ
爲スノ類懈怠トハ怠慢ナリ例ヘハ鐵道ノ標
識ヲ掲ク可キトヲ忘レ又ハ燈臺ニ火ヲ點ス
可キトヲ怠ルノ類規則トハ法律ニ於テ命令

シ若クハ禁止シタル諸件慣習トハ風習ニ於
テ自然行ヒ來リタル事例ヘハ舟車ノ衝突セ
ントスル際ニハ共ニ左側ニ之ヲ避クルノ類
乃チ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス因テ
人ヲ死ニ致シタル者ハ其事重シト雖モ固ヨ
リ人ヲ害スルノ意アルニアラス全ク過失ヨ
リ生シタルニアレハ假令高貴ノ人ト雖モ或
ハ之ヲ犯スナキヲ保シ難シ仍テ止夕二十
圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癡篤疾

ニ致シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處
ス

疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因
テ人ヲ創傷シ癡篤疾ニ致シタル者ハ人ヲ死
ニ致シタルトハ大ニ異ナレリ故ニ前條ニ定
メタル金額ノ半ニ等シキ罰金ニ處ス本條及
ヒ次條ニハ過失トノミ記載シ疎虞懈怠云々
ヲ記載セサルモノハ之ヲ畧シタルナリ

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休
業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ

罰金ニ處ス

・疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因
テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ
其罪タル前二條ニ比スレハ寛カニ輕シ仍テ
止タ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス疾病
休業ノ時間ハ第三百一條ニ記載シタルカ如
ク二十日以上ト以下トノ區分ヲ爲サス若シ
疾病休業ニ至ラスシテ止タ身體ニ創傷ヲ成
シタルノミナレハ其罪ヲ問ハス

過失殺傷ノ罰金ハ之ヲ官庫ニ納メ埋葬醫藥

ノ資ニ充ツルニ非ス其被害者ニ對スル賠償
ハ治罪法ニ於テ私訴ヲ爲シ之ヲ請求ス可キ
ノ方法ヲ詳記セリ

○第五節 自殺ニ關スル罪

自殺ニ關スル罪トハ自殺者ヲ助ケ又ハ人ヲ
教唆シテ自殺ヲ爲サシムル者ノ罪ヲ云ヒ自
殺ヲ爲ス者ヲ罰スル罪ニ非ス其所以ハ死屍
ヲ戮辱スルモ益ナケレハナリ

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ
囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者

ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

人ヲ教唆シテ自殺ヲ決心セシメタル者又ハ自殺者ヨリ急迫ナル請求ヲ受ケ其苦痛ヲ免カレシメンカ爲メ手ヲ下シタル者例ヘハ親戚朋友ヨリ其罪過ヲ譴メテ屠腹セシメ或ハ自殺者ヨリ囑託ヲ受ケテ介錯ヲ爲スノ類其事甚タ善カラスト雖モ多クハ義理人情ヨリ起ルモノナレハ自カラ恕ス可キ所アリ之ヲ

重禁錮ノ刑ニ處スルハ少シク酷ナリ仍テ六月以上三年以下ノ輕禁錮十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者トハ乃チ自殺ヲ犯ストヲ知テ之ニ器具ヲ給與シ其他ノ方法ヲ指示シタル者ナレハ其罪情之ヲ教唆シ又ハ手ヲ下シタルヨリ稍ヤ輕シ仍テ一等ヲ減シ四月十五日以上二年三月以下ノ輕禁錮七圓五十錢以上三十七圓五十錢以下ノ罰金ニ處ス可シ若シ男女同死ヲ商謀シ一人已ニ死シ一人未タ死セサル時其

生存スル者同死ノ教唆者ニ係レハ亦此條ニ依テ處斷ス可キモノトス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

本條ノ意ハ前條トハ大ニ異ナレリ乃チ自己ノ利慾ヲ逞フセンカ爲メ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ナレハ其情狀甚タ惡ム可キ所アリ例ハハ子弟其父兄ノ相續遺物ヲ受ケント欲シ其父兄ノ急迫ニ乘シテ自殺ヲ慫慂シ又ハ妻其夫ヲ自死セシメテ他ニ再嫁セント

スルノ類全ク其利慾ヨリ人ヲ教唆シテ自殺セシメタルニアレハ之ヲ重懲役ニ處ス子孫其祖父母父母ヲ教唆シテ自殺セシメタル時ハ第三百六十二條ニ照ラシ二等ヲ加ヘ之ヲ無期徒刑ニ處ス可シ

本條ノ罪ハ重罪ナレハ未タ死ニ至ラサル時ハ未遂犯罪ヲ以テ論シ一等又ハ二等ヲ減スレトモ前條ノ自殺者未タ死ニ至ラサル時ハ其罪ナシ

○第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

此節ニ記載シタル罪ハ平人ノ擅ニ人ヲ逮捕
監禁スル罪ヲ云フ逮捕官吏司獄官吏ノ擅ニ
人ヲ逮捕監禁スル罪ハ第二編第二百七十八
條第二百七十九條ニ見ヘタリ

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ
監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮
ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但
監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

現行犯人ハ治罪法ニ於テ何人ト雖モ之ヲ逮
捕スルヲ得レトモ非現行犯人ハ適當ノ官

吏ニシテ令狀ニ依ラサレハ之ヲ逮捕スルヲ
得ス又人ヲ監禁スルヲハ適當ノ官吏ニ非
サルノ外人民私擅ニ監禁スルヲ得ス若シ
擅ニ現行犯ニ非サル人ヲ逮捕シ又ハ擅ニ私
家ニ十日以下監禁シタル者ハ十一日以上二
月以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處ス但監禁日數十日以上ハ一等ヲ加ヘ十
三日以上二月十五日以下ノ重禁錮二圓五十
錢以上二十五圓以下ノ罰金ニ處シ二十日以
上ハ十六日以上三月以下ノ重禁錮二圓以上

シ二十日以上ナレハ第三百一條ニ照ラシ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ癆疾ニ致セハ第三百條ニ照ラシ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ篤疾ニ致セハ輕懲役ニ處シ死ニ致セハ第二百九十九條ニ照ラシ重懲役ニ處スルヲ云フ

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

擅ニ人ヲ監禁シタルハ水火震災ノ際ニハ最

モ先キニ其監禁ヲ解キ之ヲ放出ス可キニ之ヲ解クヲ怠リ其人ヲ死傷ニ致セハ其情狀苛酷ノ所爲ヲ施シテ死傷ニ致シタルト異ナルトナシ乃チ前條ノ例ニ同シキ所以ナリ若シ官吏此條ノ罪ヲ犯セハ第二百八十一條ニ依リ毆打創傷ノ罪ニ一等ヲ加ハリ然レトモ現ニ解クヲ得サル危急ノ場合ニハ總則ニ照ラシ之ヲ無罪トシ止夕監禁シタル罪ヲ受ク可キノミ

○第七節 脅迫ノ罪

脅迫トハ暴行ニ對スル義ニシテ言語若クハ
文書ヲ以テ人ヲ恐喝シテ畏懼セシムルヲ
云フ暴行ハ腕カヲ以テ人ヲ畏懼セシムルモ
ノトス

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人
ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者
ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産
ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ

十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

人ヲ殺サント脅迫シ又ハ其住居シタル家屋
ニ放火セント脅迫スレハ人ノ感觸ヲ發スル
之ヨリ甚シキハナク且其人ヲシテ片時モ安
居セシメサル可シ故ニ止タ人ヲ恐怖シタル
ノミヲ以テ一月以上六月以下ノ重禁錮二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ
又ハ財産ニ放火シ

人ノ住居セサル家屋建造
物船其他ノ物件ヲ蓄

ス及ヒ毀壞劫掠セント脅迫スルハ人ヲ畏懼セシムルヲ前項ニ比スレハ自カラ輕シ仍テ十一日以上二月以下ノ重禁錮二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス罰金ノ寡數各同シキモノハ罰金ハ二圓以上ナレハ己ムヲ得サルナリ

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

兇器ヲ持スルトハ手ニ持ツヲニシテ携帶スルヲニアラス兵卒ノ如キハ常ニ兵器ヲ携帶

セリ若シ脅迫ヲ爲シタルトモ之ヲ兇器ヲ持シタルトシ一等ヲ加フルノ意ニ非ス乃チ兇器ヲ手ニ持チ前條ノ脅迫罪ヲ犯シタル時ハ其人ヲ恐懼セシムルヲ甚タ深シ因テ一等ヲ加ヘ人ヲ殺サント脅迫シタルハ一月七日以上七月十五日以下ノ重禁錮二圓五十錢以上二十五圓以下ノ罰金ニ處シ毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シタルハ十三日以上二月十五日以下ノ重禁錮二圓五十錢以上十二圓五十錢以下ノ罰金ニ處ス可シ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

脅迫ノ罪ハ必シモ本人ニ對スルノミナラス其親屬ニ危害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫スルモ亦同シ何故ナレハ祖父母父母子孫兄弟姉妹又ハ配偶者等ニ至テハ其感觸己レノ身ニ脅迫ヲ受クルト異ナルヲナシ故ニ直チニ本人ニ對シ脅迫シタルト同シク親屬ヲ殺サント脅迫スレハ第三百二十六條ノ前項ノ刑ニ處シ親屬ニ毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅

迫スレハ同條ノ後項ノ刑ニ處シ兇器ヲ持シテ親屬ニ害ヲ加ヘント脅迫スレハ第三百二十七條ニ照ラシ一等ヲ加フ可シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

脅迫ハ人ノ膽力ノ強弱ニ因テ之ヲ感觸スル者ト感觸セサル者トアレハ他ヨリ之ヲ圖リ知ル可カラス故ニ他ヨリ告發スルヲ得ス必ス脅迫ヲ受ケタル本人又ハ其親屬ヨリ告

訴スルニ非サレハ其罪ヲ論セサルモノトス
○第八節 墮胎ノ罪

墮胎ハ等シク人命ヲ戕フ罪ト雖モ既ニ生レ
タル人ト胎中ニ在テ未タ社會ニ形ハレサル
者トハ大ニ間アリ且胎中ノ兒ハ果シテ全ク
分娩スルヤ否ヲ豫知スルヲ能ハス故ニ墮胎
ヲ以テ人ヲ殺スノ罪ト爲ス可カラズ然レト
モ之ヲ不問ニ措ク時ハ恐クハ其害全國ノ人
口ヲ減耗ス可シ是ヲ以テ墮胎ハ刑法ニ於テ
其罪ヲ問フ可キ者トス

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ
以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁
錮ニ處ス

婦女ノ自カラ墮胎ヲ爲スハ多クハ私通野合
ノ子ヲ育シ其父母兄弟ニ秘センヲ思ヒ又
ハ世上ニ露ハレ面目ヲ失ハンヲ恐レ其生
命ノ危險ヲ顧ミス犯シタルニアレハ其情ニ
於テ少シク恕ス可キ所アリ故ニ其刑ヲ輕ク
シ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス罰金ヲ
附加セサルモノハ婦女タル者ハ固ヨリ財物

ヲ所持セサル者ト看做セリ一體墮胎ノ罪ハ人ノ陰私ニ係ルヲナレハ務メテ之ヲ發カサルヲ善トセン乎

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ孕婦ト同情同憂ナル者即チ本夫若クハ密夫等藥物其他ノ方法ヲ以テ婦女ヲシテ墮胎セシムルハ固ヨリ婦女ト同謀ノヲナシ

ハ婦ノ自カラ墮胎シタルト同刑ニ處ス併シナカラ婦女之カ爲メ死シタル時ハ假令其死ハ意外ニ出タリト雖モ其罪墮胎ノミニ止ラサレハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者各一等ヲ加フ

醫師穩婆囑託ヲ受テ藥物其他ノ方法ヲ以テ婦女ヲ墮胎セシメ又ハ藥商情ヲ知テ藥物ヲ賣與ヘ墮胎セシメタル者ハ前條ノ刑ニ各一等ヲ加フ墮胎セシメタルハ一月七日以上七

月十五日以下ノ重禁錮ニ處シ死ニ致シタルハ一年三月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處ス可シ何トナレハ醫師穩婆藥商等ハ其職業ニ於テ人ノ健康ヲ司リ生育ヲ保護ス可キ者ナルニ却テ本旨ニ戾リ之ヲ殘害スレハ其情狀正サニ加等ス可キ者ナリ

第三百三十三條 懐胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ婦女ノ墮胎ヲ欲セサル者ヲ威逼シ暴行

脅迫ヲ為スノ類 又ハ誑騙シテ欺瞞シテ藥ヲ吞服シタル者

其他ノ方法ヲ以テ強ヒテ墮胎セシメタルモノニアレハ其情狀甚タ重シ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス因テ死ニ致シタル時ハ第三百三十五條ヲ見ル可シ

第三百三十四條 懐胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

懐胎ノ婦女タルヲ知レハ務メテ之ヲ保愛

ス可キハ自然ノ情ナリ然ルニ一時ノ怒ニ乗
 シ殴打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメ
 タル者ハ其罪前條ノ比ニアラス二年以上五
 年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ故意ヲ以テ墮胎
 セシメント欲シ婦人ノ要所ヲ殴打シ因テ墮
 胎セシメタル者ハ其情更ニ重シ之ヲ輕懲役
 ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ次條ニ
 掲ケリ

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女
 ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ノ意ハ第三百三十三條ノ威逼又ハ誑騙
 シテ墮胎セシメ因テ癡篤疾又ハ死ニ致シタ
 ルハ殴打創傷ノ本條ノ罪重ケレハ其本條ノ
 重キ刑ニ從テ處斷シ又第三百三十四條ノ毆
 打其他暴行ヲ加ヘ墮胎セシメ因テ癡篤疾又
 ハ死ニ致シタルハ亦殴打創傷ノ本條ノ重キ
 刑ニ從テ處斷スルト雖モ故サテニ墮胎セシ
 メ因テ癡篤疾ニ致シタルハ第三百三十四條ノ
 罪重シ此場合ニハ第三百三十四條ニ從テ處

斷ス可キヲ云フ

○第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

幼者トハ年齢ハ歳ニ滿タスシテ未タ智慮ノ備ハラサル者ヲ云フ老疾者トハ老者ハ年齢ニ定リナク唯タ年老テ自カラ其身ヲ衛ル力ラナキ者ヲ云フ疾病者ハ癩篤疾其他ノ病患ニ罹リテ自カラ生活スルヲ能ハサル者ヲ云フ遺棄スルトハ必シモ之ヲ他所ニ放棄スルノミナラス其家ニ置キ自カラ失踪スルトモ亦遺棄ノ罪ト為ス故ニ遺棄シタルト雖モ其

踪ヲ追ヒ歸ルヲ得ル時ハ遺棄ノ罪ニアラス

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス自ラ生活スルヲ能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

八歳ニ滿サル幼者ハ無智無識ナル者ナリ之ヲ寂寥ナラサル所ノ地ニ遺棄スルハ暗ニ他人ニ之カ救育ヲ依頼セントスルノ意ニシテ敢テ之ヲ害セントスルノ意アルニ非サルヲ

瞭カナリ仍テ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ
 處ス罰金ヲ附加セサルモノハ遺棄ノ罪ハ固
 ヲリ貧窶ヨリ出レハ罰金ヲ科ス可キ資力ナ
 キモノトス幼者ノ年齢八歳ト定ムル者ハ滿
 八歳以下ハ如何ナル罪ヲ犯スト雖モ刑法ニ
 於テ其罪ヲ問フヲ得サルモノナレハナリ
 老者疾病者ノ自カラ生活スルヲ能ハス人ノ
 保養ヲ仰ク可キ者ヲ遺棄シタルハ殆ント幼
 者ヲ遺棄スルニ異ナルヲナケレハ亦前項ト
 同刑ニ處ス可シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾
 者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上
 四年以下ノ重禁錮ニ處ス

八歳ニ滿サル幼者又ハ老者疾病者ヲ寥闕ト
 シテ人跡ナキ深林曠野等ノ地ニ遺棄シタル
 者ハ固ヨリ鳥獸ノ蹴啗ヲ念ハス其生命ノ危
 難ヲ顧ミス其残忍無道タル甚タ惡ム可シ仍
 テ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ
 保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一

等ヲ加フ

人ヨリ寄託ヲ受ケ幼者老者疾病者ヲ給料ノ
爲メ看護保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタ
ル時ハ其情通常ノ人ヨリ重シ故ニ一等ヲ加
ハ寡聞ナラサル地ニ遺棄シタルハ一月七日
以上一年三月以下ノ重禁錮ニ處シ寡聞ノ地
ニ遺棄シタルハ五月以上五年以下ノ重禁錮
ニ處ス可シ

此條ノ罪ハ多クハ給料ヲ受クル爲メ他人ノ
孩兒ヲ受寄シテ乳育スル者其利慾ノ爲メニ

其兒ヲ遺棄シテ更ニ他ノ孩兒ヲ受寄セント
スルニアリ併シナカラ給料ヲ得サル時ハ之
ヲ遺棄スルモ前條ノ刑ニ處シ本條ノ刑ニ處
ス可カラス

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡
疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタ
ル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒
刑ニ處ス

本條ハ寡聞ト繁劇トヲ問ハス幼者老疾者ヲ
遺棄シテ癡疾ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ罪

ヨリ情狀重ケレハ之ヲ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル時ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル時ハ有期徒刑ニ處ス此殺傷ノ罪ハ遺棄セラレタル者凍餓ニ堪ヘスシテ自カラ死傷シタルモノ又ハ他人若クハ禽獸ノ為メニ死傷ヲ受ケタルモノヲ總テ包括セリ併シナカラ甲ノ遺棄シタル者ヲ乙ノ殺傷シタル時ハ乙其殺傷ノ罪ヲ受クレハ甲ニ於テハ止夕其遺棄シタル本刑ノミヲ受ケ殺傷ノ罪ヲ受クルヲナシ

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ自己ノ所有地内又ハ他人ヨリ委託ヲ受ケ看守スル地面内ニ幼者老疾者ノ遺棄セララル者アレハ其地主又ハ看守者番人支配人ノ類ハ懇口ニ之ヲ扶助シ又ハ速カニ官署ニ届出ツ可シ

若シ遺棄セラル、者ノ困苦スルヲ見テ扶助
セス又ハ煩勞ヲ厭フテ官ニ届出サル者八十
五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
本條ノ後項ハ遺棄セラレタルニ非ス他所ヨ
リ前項ニ記載シタル地所内ニ來リ疾病ニ罹
ツテ昏倒スル者ヲ云フ之ヲ扶助セス又ハ官
署ニ申告セサル者モ亦同刑ニ處ス

○第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

此所ノ幼者ハ男女ヲ分タス總テ二十歳未滿
ノ者ヲ云フ略取トハ暴行脅迫ヲ以テ人ヲ奪

取スルヲ云フ誘拐トハ謀略ヲ用ヒ欺瞞シ
テ其人ニ承諾ヲ得セシメ誘引スルヲ云フ
略取誘拐ハ自カラ之ヲ藏匿シ若クハ他人ニ
交付シタル時ニ於テ始テ其罪ト爲ル可シ
第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取
シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付
シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十二歳ニ滿サル幼者ハ自カラ事ノ利害ヲ判
スルノ智慮ナク又攫去セラル、モ之ヲ拒ハ

△可キ脅力ナキモノナリ故ニ後條ニ於テハ
略取誘拐ノ差別アレトモ本條ハ其差別ナク
之ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自カラ其家ニ藏匿
シ若クハ他人ノ手ニ渡シタル者ハ二年以上
五年以下ノ重禁錮十圓以上百圓以下ノ罰金
ニ處ス

本條ノ罪ハ多クハ人ノ幼女ヲ略シテ娼家ニ
賣ラントスルノ貪慾心ヨリ起ル者ナレハ殊
ニ罰金ヲ重クシテ附加スルナリ

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ満サル

幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付
シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ
五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シ
テ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十二歳以上二十歳ニ満サル者ハ自カラ事ノ
是非ヲ辨別シ稍ヤ其體力モ備ハレハ之ヲ略
取シ之ヲ誘拐スルトモ人ノ援助ヲ乞ヒ又ハ
自カラ其家ニ歸ルヲ得レハ略取誘拐者ニ

於テモ其罪自カラ輕シ仍テ略取ト誘拐トヲ區別シ十二歳未滿ノ者ヨリ其刑ヲ輕クス乃チ略取シテ自カラ藏匿シ若クハ他人ニ渡シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其誘拐シテ自カラ藏匿シ若クハ他人ニ渡シタル者ハ其承諾ヲ得テ誘引スレハ其罪略取ヨリ輕シ六月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルト

ヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

本條ハ第三百四十一條第三百四十二條ノ犯人ヨリ幼者ノ交付ヲ受ケタル者ノ罪ヲ云フ乃チ他人ノ略取誘拐シタル幼者ナルトヲ知テ其交付ヲ受ケ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ藝娼妓等ノ名稱ヲ以テ之ヲ請取リタル者ハ其情盜賊ヲ知テ受寄シタル者ニ等シ自カラ現ニ略取誘拐シタルニアラサレハ前二條ノ

例ニ照ラシ各一等ヲ減ス乃チ十二歳ニ滿サル幼者ニ係レハ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮七圓五十錢以上七十五圓以下ノ罰金ニ處ス十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シタルニ係レハ九月以上二年三月以下ノ重禁錮三圓七十五錢以上三十七圓五十錢以下ノ罰金ニ處シ誘拐シタルニ係レハ四月十五日以上一年六月以下ノ重禁錮二圓以上科料ニ降ルユハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス可シ

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

略取誘拐ノ罪ハ犯姦ト同シク其事ヲ世上ニ公ケニセハ其幼者ノ終身他ニ婚姻スルヲ得ス廢物ト爲ラントヲ恐レ其父母タル者ハ務メテ之ヲ陰秘スルモ知ル可カラス若シ他ヨリ之ヲ發覺シテ罰スルトヲ爲セハ被害者ニ於テ既ニ害ヲ被ムリタル上ニ更ニ害ヲ被

ムルヲアリン因テ略取誘拐ノ罪ハ被害者又ハ其親屬總則第一百四條ニヨリ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セサル者トス但略取誘拐セラレタル幼者其犯人ト式ニ從テ區郡婚所ケヲ為ス婚姻ヲ為シタル時ハ假令親屬ヨリ告訴ヲ為ストモ略取誘拐ノ罪消滅ス可シ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ二十歳未滿ノ幼者ヲ外國人ニ交付シ

日本人口ヲ減殺シタル罪ナレハ略取誘拐ニ於テ最モ重キ罪ト為ス夫レノミナラス外國ニ交付シタル時ハ其幼者ヲ搜索スルノ難ク又幼者モ自カラ復歸スルヲ得サレハ其情狀甚タ重シ故ニ重罪ト為シ之ヲ輕懲役ニ處ス

○第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

男女ノ和媾ハ自由ナルモノトシ法律ノ敢テ制限スル所ニ非ス故ニ人目ニ觸レス公衆ニ害ナキ時ハ之ヲ罪トセス公路ニ於テ猥褻ノ行ヲ為シタル罪

ハ第二百五十八條ニ見ヘタリ唯タ幼者ハ情實未タ開ケス之ヲ姦セハ自カラ害アリ故ニ罪アリトス又幼者ニ非サルモ強暴ヲ用ヒ人ノ節操ヲ汚スモ亦罪アリトス其他幼者ノ淫行ヲ鼓舞シ及ヒ夫アルニ猶ホ姦ヲ犯シ若クハ二夫二妻等ハ夫婦ノ正義ヲ破リ或ハ風俗品行ヲ紊レハ法律ニ於テ必ス罰ス可キ者トス

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ

一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ナル所行ヲ爲シタル者ハ暴行脅迫ヲ爲サスト雖モ未タ情慾ノ發セサル者ヲ欺瞞シタルニアリ因テ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ト同シク一月以上一年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス猥褻ノ所行トハ未タ姦通ニ至ラス手ヲ以テ淫ヲ爲ストモ人ノ貞潔ヲ汚損

スルヲハ一ナリ男ノ男ニ對シ女ノ女ニ對ス
ル所行及ヒ雜姦モ亦猥褻ノ所行トス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ
暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十二歳ニ滿サル幼者ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ
猥褻ノ所行ヲ爲スニ至テハ其情甚タ惡ム可
シ仍テ前條ノ刑ニ倍シ二月以上二年以下ノ
重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シ
タル者ハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂
セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

本條ハ婦女ヲ強姦シタル罪ヲ云フ乃チ有夫
ノ婦若クハ十二歳以上ノ女ニ對シ其承諾セ
サル者ヲ暴行脅迫ヲ用ヒ其力ヲ拒防スルコ
能ハサラシメ因テ其情慾ヲ遂ケタル者ヲ強
姦ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス強姦未タ成ラサ
ル時ハ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタ

ル者トス併シナカラ強姦ノ罪ヲ定ムルハ已ニ没入スレハ充分ナルモノトス

又暴行脅迫ヲ用ヒスト雖モ婦女ニ藥劑若クハ酒類ヲ與ヘテ一時昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメ其本心ヲ失ヒタルニ乘シ情慾ヲ遂ケタル者モ亦固ヨリ承諾ヲ得ルニ非サレハ強姦ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル幼女ハ情實未タ開ケス之ヲ姦スル必ス誑騙ニ因ル故ニ暴行脅迫ヲ用ヒスシテ姦淫シタリト雖モ之ヲ輕懲役ニ處ス若シ暴行脅迫ヲ用ヒ又ハ藥酒等ヲ用ヒテ幼女ヲ強姦シタル時ハ一等ヲ加ヘ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前數條ニ記載シタル猥褻姦淫ノ罪モ亦略取誘拐ノ罪ト同シク其事ヲ世上ニ公ケニセハ

終身婚姻スルヲ得サルノ恐レアリ故ニ他人ヨリ之ヲ告發スルトモ受理ヤス必ス被害者又ハ其親屬ヨリ告訴ヲ爲スヲ待テ犯人ヲ其刑ニ處ス可シ併シナカラ次條ノ如キ人ヲ死傷スルノ場合ニ至テハ一般ノ公害トナレハ他人ヨリ告發スルト雖モ其罪ヲ論ス可キ者トス乃チ本條ヲ特ニ茲ニ設クル所以ナリ第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢

篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
前數條ニ記載シタル猥褻ノ所行又ハ姦淫ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照ラシ重キニ從テ處斷ス例ハハ暴行脅迫ヲ以テ男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ因テ創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹ラシムル時ハ殴打創傷ノ本條ノ刑重シ第三百一條ニ依ツ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シ因

テ創傷シ癆疾ニ致シタル時ハ姦淫ノ罪重シ
第三百四十九條ニ依リ輕懲役ニ處スルヲ
云フ但強姦ヲ犯シタルニ因リ人ヲ癆疾篤疾
ニ致シタル者ハ姦ヲ犯シ且傷ヲ成セハ其罪
重シ毆打創傷ト比例ヲ爲ス可キモノニ非ス
故ニ之ヲ有期徒刑ニ處ス死ニ致シタル時ハ
其罪更ニ重シ之ヲ無期徒刑ニ處ス強姦ノ罪
ニ於テハ特ニ癆疾以上ノ刑ヲ掲ケ其以下ノ
創傷ヲ言ハサルモノハ強姦ノ刑已ニ重シ且
強姦ノ罪ニハ通常傷ノ有無ヲ檢査シテ判定

スルニアレハナリ

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行
ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

本條ハ媒合者ノ罪ヲ云フ十六歳ニ滿タサル
幼男幼女ノ未タ智識ノ充分ナラサル者ニ淫
事ヲ鼓舞シ他人ニ媒合シテ其情慾ヲ遂ケシ
ハ此事甚タ風俗ヲ濫ル可キヲ以テ一月以上
六月以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處ス本條ノ罪ハ多クハ雇人請宿ノ雇女
ヲ誑騙シテ娼妓ト爲サシメ或ハ船宿女髮結
等男女ノ間ニ在テ媒介シ幼者ヲ欺ヒテ姦通
セシムルコトニテ全ク己レノ貪慾心ヨリ人ヲ
淫行ニ導ク者ヲ云フ

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者
亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本
夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

本條ハ正妻ノ他人ト姦通スル罪ヲ云フ夫ア
ル者餘人ト姦通シ其本夫之ヲ告訴シタル時
ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス罰金ヲ
附加セサルモノハ婦人ハ通常其私財ヲ有セ
サレハ若シ罰金ヲ附加スル時ハ却テ其夫ノ
害トナル可シ其相姦スル者モ同刑ニ處スル
モノハ人ノ妻タルコトヲ知テ姦ヲ犯セハ共ニ
罪ナカル可カラス然レトモ初ヨリ有夫ノ婦
タルコトヲ知ラスシテ姦スル者ハ其罪ナシ
有夫姦ハ本夫ノ告訴ヲ待ツモノハ蓋シ中葺

ノ事ハ之ヲ外ヨリ摘發スルハ法律ノ精理ニ
戻レハナリ併シナカラ第三百十一條ニ詳解
シタルカ如ク本夫其婦ノ未タ姦通セサル前
ニ之ヲ聽許シ若クハ黙許シ又ハ其淫行ヲ誘
ヒテ利ヲ圖ル等ノ事情アレハ假令本夫ヨリ
告訴ヲ爲ストモ之ヲ受理セス

第三百五十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ
爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條謂フ所ノ重婚ノ罪トハ已ニ本夫アリ本

妻アリテ又更ニ法式ニ從ヒ婚姻ヲ爲シタル
者ヲ云フ重婚ハ畜ニ夫婦ノ正義ヲ破リ一家
ノ不治ヲ致スノミナラス社會ノ風儀ヲ害ス
ルモノナリ仍テ六月以上二年以下ノ重禁錮
五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但後ニ爲
シタル婚姻ハ行政ノ處分ヲ以テ當然之ヲ離
別ス可キ者トス

1
8
5

刑法註釋卷六終

東泉園書

八	五	二	一		
冊	號	架	函	屬	類